

[成果情報名] 2009年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約] 山形県において発生から6年目となったコイヘルペスウイルス病は、7～9月までの間に5件確認され、発生件数は前年より6件減となった。発生時期で比較すると前年より初発が1ヶ月早かった。発生場所は養殖業者等1件と他は個人池であった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病(以下KHVD)が確認されてから、本年は6年目となった。2004～2009年の月別発生件数(表1、図1)、発生場所別の発生割合(図2)を示した。
2. 2009年のKHVDの発生はマゴイ及びニシキゴイで前年(11件)より6件減の5件確認された。これまでの発生件数を年別に見ると、2004年-69件、2005年-16件、2006年-3件、2007年-12件、2008年-11件となっている(表1)。
3. 発生時期は7月21日から9月16日までの3ヶ月間みられ、前年と比較すると初発がほぼ1ヶ月早かった。2004～2009年の月別発生件数からは2004～2006年は6月、2007年は7月、2008年は8月が初発となっており、年を追う毎に初発が遅れる傾向があった(表1、図1)。
4. 2009年の発生は養殖業者等(ニシキゴイ)1件と個人池4件であった。養殖業者等の発生は2年ぶりの発生となった。地区別には庄内地区1件、最上地区1件、村山地区1件、置賜地区2件であった。
5. 2004～2008年の発生場所別の発生割合からは、養殖業者等における発生例が2008年を除いた各年、天然の湖沼や河川での発生は2004～2005年までとなっている(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 村山地区の1件については感染経路が特定されたが、他の事例については感染源が特定できない状況であった。
2. 依然として感染源となりうる感染耐過魚は広く存在すると推定されるので、発症したり、斃死したコイは速やかに埋却あるいは焼却処分をするなど、決して川や池に捨てることのないよう、基本的な防疫対策を今後とも継続していく必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2009年の山形県における月別・発生場所別のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	2008年	2007年	2006年	2005年	2004年
養殖・加工・釣り堀等業者			1				1	0	2	1	4	6
天然湖沼河川や用水路							0	0	0	0	1	16
公園や学校等の池や堀							0	0	2	1	1	6
個人池		2		2			4	11	8	1	10	41
計	0	2	1	2	0	0	5	11	12	3	16	69
2008年	0	0	5	5	1	0	11					
2007年	0	4	4	3	1	0	12					
2006年	1	1	1	0	0	0	3					
2005年	3	6	4	1	2	0	16					
2004年	12	11	32	9	4	1	69					

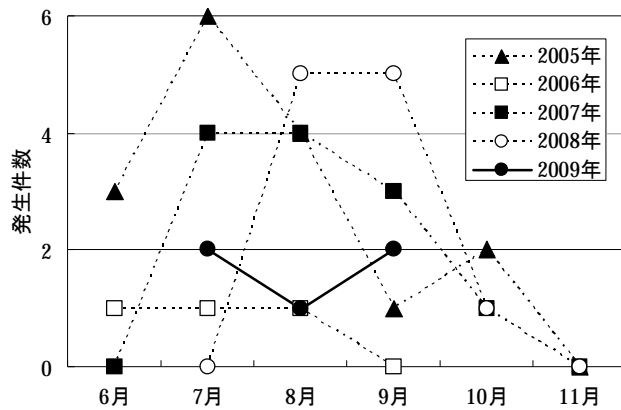


図1 KHVDの月別発生件数

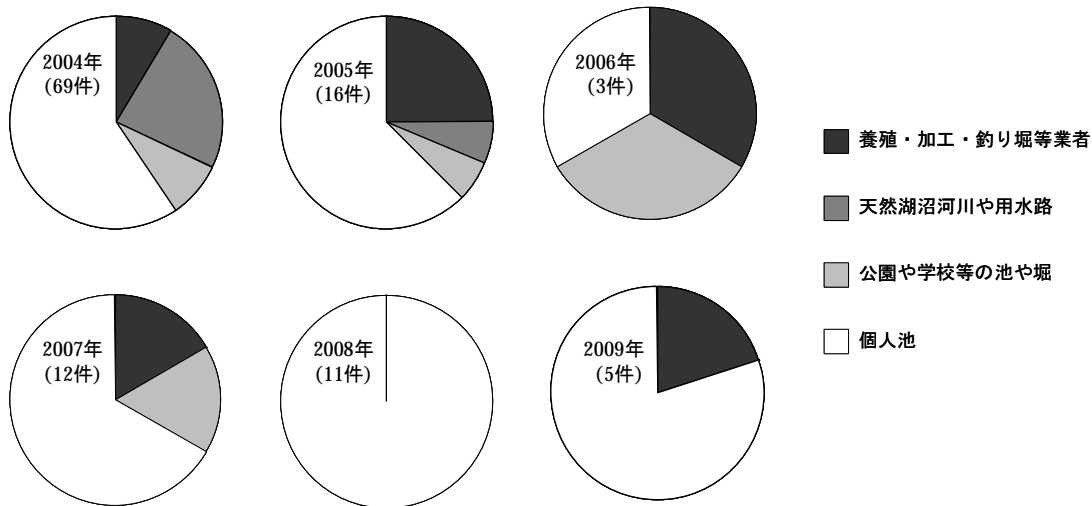


図2 発生場所別のKHVD発生割合

[その他]

研究課題名：KHVまん延防止対策事業
 予算区分：国庫
 研究期間：平成21年度
 研究担当者：鈴木裕之、荒木康男、大川恵子
 発表論文等：なし